



2019年9月2日

## プレスリリース

### 宇宙ベンチャーQPS 研究所、衛星の愛称と打上げロケットの詳細を発表

日本発ならびに世界最高レベルの地球観測用小型高分解能 SAR(合成開口レーダー<sup>1</sup>)衛星の開発に取り組む株式会社 QPS 研究所（本社：福岡県福岡市、代表取締役社長：大西俊輔、以下「QPS 研究所」）は、2019年9月2日に打上げロケットとそのスケジュール、ならびに衛星の愛称に関する発表を行いました。

<sup>1</sup> SAR（合成開口レーダー）：電波を使用して地表の画像を得るレーダー。雲や噴煙を透過し、昼夜を問わず観測することができる点が特長。

これまで QPS 研究所の小型 SAR 衛星は QPS-SAR と一般的に呼ばれておりましたが、この度初号機を『イザナギ』、2号機を『イザナミ』と愛称を付けることとなりました。古事記において『イザナギ』と『イザナミ』は日本を作った神様とされており、弊社の衛星が「日本発」の衛星であることや弊社の名前（institute for Q-Shu Pioneers of Space）の一部である「九州（Q-shu）」の高千穂が天孫降臨の地であることなどを考慮致しました。また、2017年10月に株式会社産業革新機構（現株式会社 INCJ。本社：東京都千代田区、代表取締役社長：勝又幹英）、スパークス・グループ株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：阿部修平）を運営者とする未来創生ファンドをリード投資家とし、総勢9社を引受先とする総額23.5億円という Series A の資金調達をした際、「2機」の衛星の開発、製造、打上げのチャンスを頂くことができました。そのような中、これから弊社が創り出す衛星ならびに世界は、まずはこの2機の衛星から始まるという意味も込めて、『イザナギ』、『イザナミ』という名前とさせて頂きました。

QPS 研究所の小型 SAR 衛星初号機『イザナギ』は2019年Q4(10月~12月)にインドのアーンドラ・プラデーシュ州のシューリハリコータにございます『サティシュ・ダワン宇宙センター』よりインドの主力ロケットである『PSLV (Polar Satellite Launch Vehicle)』にて打上げられる予定となっております。当初は2019年前半での打上げが予定されており、そのスケジュールに合わせて QPS 研究所も『イザナギ』を2019年3月に完成、ロケットの打上げスケジュールの確定を待ち望んでおりました。この度、ついに打上げ場所とスケジュールを発表できることを大変嬉しく思っております。

2005年に福岡市にて創業した宇宙ベンチャーQPS 研究所は、九州大学の名誉教授陣と若手技術者・実業家が幅広い経験と斬新なアイデアをもとに、世界トップレベルの衛星情報ビジネスを創造する会社です。創業以前より宇宙技術を伝承し、育成してきた約20社の九州の



2019年9月2日

地場企業（北部九州宇宙クラスター）と共に、この度 QPS 研究所は天候に左右されず 24 時間観測可能な小型 SAR 衛星を開発しました。

これまで地球を観測するための人工衛星分野においては可視光を使用する光学（カメラ）衛星<sup>2</sup>が大半を占め、小型・高分解能・低コストの光学衛星は世界的にも数多く存在していますが、それらでは地球上の約 7 割を占める夜間や雲の存在する地域を観測することが困難でした。また、夜間や雲の存在する地域でも観測することのできる SAR 衛星も存在していますが、これまで SAR 衛星は大きなアンテナを必要とし、多量の電力を消費するため、小型化が困難であり、数百 kg～数トンの重量を持つ大型で高コストのものが主流でした。

<sup>2</sup> 光学衛星：可視光などにより地表の画像を得る人工衛星。

QPS 研究所は、これまでの豊富な衛星開発の経験を生かして、直径 3.6m と大型でありながら、わずか 10kg と大変軽く、更に打ち上げ時はコンパクトに折りたたまる収納性の高いアンテナを実現することで、電力とアンテナのハードルを乗り越え、従来の 20 分の 1 の質量の 100kg への軽量化、コストも従来の約 100 分の 1<sup>3</sup>を実現できる目処をつけました。

<sup>3</sup> 従来の数百億円的大型衛星と比較して数億円にコストダウン。

QPS 研究所は 2019 年 Q4 に『イザナギ』を、2020 年前半に 2 号機である『イザナミ』の打上げ計画しております。さらに QPS 研究所は 2024 年頃を目標に、36 機の SAR 衛星体制を構築し、世界中のほぼどこでも約 10 分で地球を撮影することができる世界を構築し、継続的に得られる画像データと AI（ディープラーニング、機械学習等を駆使した分析技術）を組み合わせるにより、インフラ老朽化の検知、農業、海洋・漁業等の効率化、物流の効率化、災害時の迅速な状況把握、自動運转向けの高頻度高精細 3D マップの実現等のアプリケーションへの活用を目指しております。

<本発表資料のお問い合わせ先>

株式会社 QPS 研究所 市來

福岡県福岡市中央区天神 1-15-35 レンゴー福岡天神ビル

URL : <https://i-qps.net/>